

単路部における無信号クランク式 二段階横断施設の実用化に関する研究

平成 29 年 2 月 秋山 大輔

要旨

目的

歩行者の単路部横断は、左右を同時に確認し車道部を一度に渡りきる必要があるため、横断後半部で重大事故が起きやすい。この対策として、海外では無信号クランク式二段階横断施設が広く普及している。しかし日本では現在、宮崎県の一例のみである。そこで本研究は宮崎県の横断施設に着目し、施設の効果等について調査・分析を行い、今後の実用化に向け、利用者の安心感を高め、多くの人に安心して利用してもらうことを目的とする。

方法

まず宮崎県平田地区で、地域住民、横断施設沿道の商業施設への買い物客を対象に利用実態調査を行った。また被験者を用意し実際に何度も横断してもらった後、安全性等についての意識調査を行った。これらの調査結果から、各対象者の横断施設に対する評価を把握し、交通事故対策としての有効性と利用者の安心感向上に求められることについて検討する。また各対象者の安全性に対する意識に影響を与える要因を明らかにするために多変量解析を行った。これにより横断施設の安全性向上に求められることは何か検討する。

結論

調査データの分析結果から、各対象者において、多くの人々が横断施設への評価が高く交通事故対策として有効性が高いと判明した。また、買い物客と被験者は安全性や将来性等の項目で、地域住民よりも評価が高いという傾向がみられた。これは横断施設に対する経験の差が要因だと考えられる。買い物客は普段から横断施設を利用しており被験者も短時間に何度も横断しているため、両者とも施設利用の経験が多いといえる。したがって今後の実用化に向け、利用者の安心感を向上させるためには横断施設に対する利用者の経験値増大が重要であると示唆された。次に多変量解析の結果より、各対象者の安全性に対する意識に影響を与える項目を把握した。しかし、使用したデータ数が少なく、結果の信頼性に欠けているため、再度、安全性向上には何が求められるのか検討する必要がある。

指導教員 高瀬 達夫 准教授